

岩手・宮城内陸地震 10 年メモリアル国際シンポジウムで講演しました(2018/07/06)

テーマ：震災伝承、直下型地震

URL：<https://japan.landslide-soc.org/branch/tohoku/index.html>

7月6日(金)「岩手・宮城内陸地震 10 年メモリアル国際シンポジウムー地震による斜面災害の実際と克服の工夫ー」が「このはな咲くや姫ホール」(宮城県栗原市)にて開催されました(主催：(公社)日本地すべり学会東北支部、栗駒山麓ジオパーク推進協議会)。2008年6月14日に岩手・宮城内陸地震が M6.2 で発生し、犠牲者や大規模な山地崩壊が発生しました。栗原市では、日本最大規模の地すべりである「荒砥沢地すべり」を始めとする山地災害の現場を「防災教育の場」、「自然の驚異を目の当たりに体感する場」として役立て、後世に伝えることを柱の一つとして栗駒山麓ジオパークを設立しています。震災発生から 10 年を迎え、ジオパーク活動と学校の総合学習・防災教育との協働も定着してきました。この機会に、地震を契機とした斜面災害の実際と克服過程をふりかえり、併せて国内外の様々な斜面災害対応の諸事例にも教訓を求めるために国際シンポジウムが開催されました。

同シンポジウムは、第 1 部：地震地すべりの実際と災害克服の知恵としてのジオパーク活動、第 2 部：地すべりの場所的予測と地図化、第 3 部：地すべりメカニズムと減災対策と、全三部・15 講演が行われました。当研究所の佐藤翔輔准教授(情報管理・社会連携部門)は「災害の記憶を継承する意義ー過去の被災事例をもとに」というタイトルで、災害伝承によって人的被害が低減された事例(東日本大震災)、災害伝承を活用して地域活性化が行われた事例(2004 年新潟県中越地震災害)を紹介しました。シンポジウムには約 200 名の国内外の研究者・実務者・地域住民が参加し、大変盛会となりました。以上の講演についても、時間を超過するほど大変多くの質問・コメントが寄せられました。



会場の様子

文責：佐藤翔輔(情報管理・社会連携部門)